

経済マンスリー [原油]

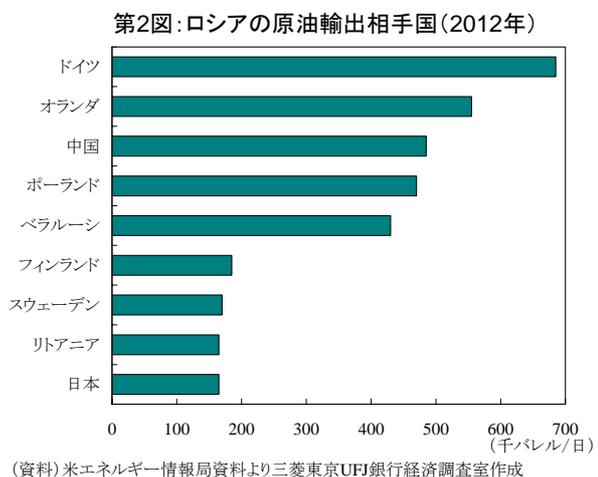
ウクライナ情勢緊迫への警戒が強まる

原油価格（WTI 期近物）は 2 月後半、米国北東部での寒波による需要増加期待の高まりを背景に概ね 100～102 ドル台で推移した（第 1 図）。3 月に入るとウクライナ情勢緊迫を受けてロシアの原油供給を巡り不安が強まったことから、原油価格は 3 日に 104 ドル台と 5 ヶ月半振りの高値に上昇した。しかし、中国経済の減速懸念等を背景に原油価格は軟化し、12 日には米政府の戦略石油備蓄の試験放出が嫌気され、97 ドル台に下落した。足元では米経済指標の改善を受けて、100 ドル近辺で推移している。

ウクライナ情勢を巡り、米欧はロシアに対し、当局関係者の資産凍結や渡航禁止等の制裁を実施したが、追加制裁として原油・天然ガスの輸入制限に踏み切るか否かが注視されている。欧州のロシアへのエネルギー依存度は高く、例えばドイツの原油・天然ガス輸入のうち、約 3 割はロシアからである。一方、ロシアにとっても原油輸出の約 7 割は欧州向けであり、特にドイツとオランダ向けが大きい（第 2 図）。

このようにロシアと欧州はエネルギー面で相互依存関係が強いことから、欧州がロシアからの原油・天然ガス輸入を制限、もしくはロシアが欧州向け輸出を制限する可能性は小さいとみられている。ロシアでは政府の歳入の約 5 割が原油・天然ガス関連収入であり財政面でのエネルギーの重要性が高いことも、こうした見方の支援材料となっている。

近年、原油価格に大きな影響を与えた地政学リスクといえば、「アラブの春」以降の中東・北アフリカ産油国の情勢緊迫だったが、今般、ウクライナ情勢を巡る地政学リスクも顕在化したことで、再び供給不安が高まりやすい局面を迎えている。原油市場ではウクライナ情勢緊迫への警戒は強い。米欧とロシアの対立は予断を許さず、当面は原油価格の強含み推移が予想される。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 宮城 充良 mitsuyoshi_miyagi@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。